



第3話「久米島占領の記録」はアメリカ軍の記録に基づいて、なぜ久米島は艦砲射撃も受けず偵察大隊が上陸しただけで済んだのか伝えることになるろう。

第2章は1945年7月から46年6月までのアメリカ軍政府の記録に基づいて戦争を生き残った住民がいかに関戦後復興に立ち向かったか、その生活や移動など詳細な歴史事実が初めて明らかにされる。

第3章は戦争の中でハワイ、カリフォルニアのエンジェル・アイランドに送られた防衛隊員のリストと証言、大東諸島から引き揚げた日本軍の記録、サイパン・テニアンから引き揚げた沖縄人のリスト、台湾からの引き揚げ、日本からの引き揚げ、日本への引き揚げの記録などを基に「引き揚げ」の全貌の解明に着手するものである。

第3章の1部が第2章で語られることもある。

沖縄県資料編集室にはアメリカ海兵隊の記録500件およそ10万ページが保存されている。沖縄県公文書館には戦後の占領軍文書を中心に350万ページが収集され、かなり充実してきている。この膨大な資料を前に、沖縄戦の研究はまだ始まったばかりだ、というのがぼくの実感だ。

歴史の全てを知ることはできないように、戦争の全てを知ることはできない。人間（ひと）は信じたいことを信じてしまう、つまり、自分に都合のいいことを信じてしまうからだ。大切なことは、戦争とは人間の物語であることを認識し、物事の本質をしっかりと押さえるということだ。

「パンドラの箱」を開けるには勇気は必要でない。ちょっとした好奇心があればよいことだ。だが問題は「パンドラの箱」を開けた時、何が飛び出すか、だ。絶望か希望か、それとも・・・さあ、いよいよ「パンドラの箱」を開けよう。

（ドキュメンタリー作家）

++++